

一方的に教えるのではなく、対話を通じて
気づきを引き出す目見田社長のスタイル



講義の核心は、成果や評価ではなく
“どう在りたいか”を問い続けること



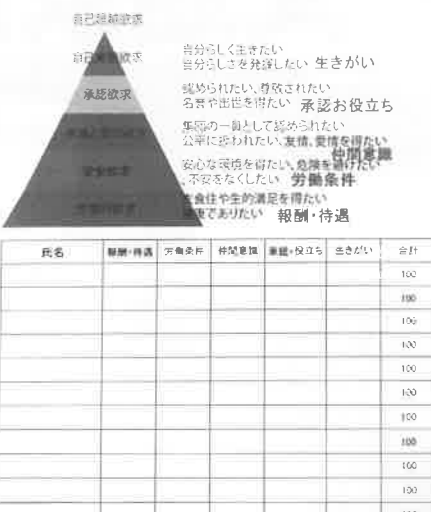
冒頭30分は、本誌副編集長・秋山が
最近の業界動向や取材の舞台裏を紹介した



和やかな雰囲気の中にも、問いを深めようとする緊張感が漂う。
グループワークでは、立場を越えて率直な意見交換が続いた



マズローの欲求5段階説



目見田社長が考案した新マズローの欲求チャート。これまで見えなかった人の価値観が可視化され、相互理解に役立つと評判だ

意識が変わり、組織が強くなる人材開発プログラム 「CALワークス」



有力SS特約店・智頭石油の
幹部研修に潜入!

経営者としての実体験に裏打ちされた言葉を語る目見田社長。理論を超えた説得力が、受講者の心を動かしていた

う重なるか、その軸を言葉にすることが基盤になると目見田社長は指摘した。

まず取り上げたのは「信用」と「信頼」の違いだ。信用は過去の実績に基づく評価、信頼は未来を共に築こうとする意思。幹部に求められるのは後者を集める力だと語った。

次に「目的と手段を取り違えないこと」。成果ばかりを追えば手段が目的化する。だが目的が明確なら遠回りにも意味が宿る。その順序を問い直す姿勢が必要だと説いた。そして大事なのが「共感の力」。理解されるだけでなく「一緒にやろう」と共感を得ることでチームは力を発揮する。数字には現れにくい、人の行動を変える力がそこにあると強調した。講義の合間にはグループワークも行われ、参加者は皆、自らの考えを必死に言葉にして発表した。

ある参加者は「正直さ」を掲げ、別の参加者は「挑戦心」を挙げる。議論の中で

「誠実と挑戦は両立できるのか」という問いが生まれ、互いの経験を引き出し合う姿があった。同じ職場にいながら異なる視点が浮かび上がり、そうした違和感を言語化する過程が共感と信頼を深める学びとなる。受講者は自分の言葉で価値観を見つめ直し、他者の視点に触れることで思考を広げていったようだ。

研修を終えた参加者の間には「小さな行動から変えていこう」という声があがった。例えば、LINEの一言を丁寧に戻す。空気を怠らなく点検する。お客様に目を合わせて挨拶する。そうした日常の実践にこそ、信頼を積み重ねる力がある。

智頭石油が導入した「CALワークス」は、単なる社員教育を超えた取り組みだ。まさに幹部が足元を見つめ直し、会社の発展と人生を重ね合わせる覚悟を育む営み。その試みは、現場に新しい信頼の文化を静かに根づかせていくだろう。

売上高約50億円、社員数166名。直営7SSを基盤に、整備や保険、車販、ロードサービス、ガス販売までを手がける一鳥取県智頭町の智頭石油（出光系／田中康崇社長）は、地域のカーライフを総合的に支える地元有力企業である。鳥取東部から山陰一帯にかけて、燃料供給のインフラとして存在感を示しつつ、事業の裾野を着実に広げてきた。

そんな同社がいま力を注ぐのが幹部層の人材育成。その切り札として導入したのが、CAL研究会の人材開発プログラム「CALワークス」である。同プログラムを提供するのは、同業で人材育成事業も展開する目見田商事（PB系／兵庫県宝塚市）の目見田純也社長だ。

目見田社長は、「人は人の役に立つときにこそ生きがいを感じる」という信念を胸に、3年ほど前から中小企業の幹部層を対象にした人材開発セミナーを立ち上げた。

「重なるか、その軸を言葉にすることが基盤になると目見田社長は指摘した。」

まず取り上げたのは「信用」と「信頼」の違いだ。信用は過去の実績に基づく評価、信頼は未来を共に築こうとする意思。幹部に求められるのは後者を集める力だと語った。

次に「目的と手段を取り違えないこと」。成果ばかりを追えば手段が目的化する。だが目的が明確なら遠回りにも意味が宿る。その順序を問い直す姿勢が必要だと説いた。そして大事なのが「共感の力」。理解されるだけでなく「一緒にやろう」と共感を得ることでチームは力を発揮する。数字には現れにくい、人の行動を変える力がそこにあると強調した。講義の合間にはグループワークも行われ、参加者は皆、自らの考えを必死に言葉にして発表した。

ある参加者は「正直さ」を掲げ、別の参加者は「挑戦心」を挙げる。議論の中で

「誠実と挑戦は両立できるのか」という問いが生まれ、互いの経験を引き出し合う姿があった。同じ職場にいながら異なる視点が浮かび上がり、そうした違和感を言語化する過程が共感と信頼を深める学びとなる。受講者は自分の言葉で価値観を見つめ直し、他者の視点に触れることで思考を広げていったようだ。

研修を終えた参加者の間には「小さな行動から変えていこう」という声があがった。例えば、LINEの一言を丁寧に戻す。空気を怠らなく点検する。お客様に目を合わせて挨拶する。そうした日常の実践にこそ、信頼を積み重ねる力がある。

智頭石油が導入した「CALワークス」は、単なる社員教育を超えた取り組みだ。まさに幹部が足元を見つめ直し、会社の発展と人生を重ね合わせる覚悟を育む営み。その試みは、現場に新しい信頼の文化を静かに根づかせていくだろう。